

三田推8 小論文

【三田8 推薦】

注 意

- 1 問題は、問Ⅰと問Ⅱで、この冊子の中に印刷してあります。
- 2 検査時間は五〇分で、終わりは午後〇時〇〇分です。
- 3 文章は解答用紙に丁寧な文字で明確に記述し、**解答用紙だけを提出**しなさい。
- 4 文章は縦書きで、解答用紙のマス目の中に、原稿用紙の使い方に従って記入しなさい。
- 5 解答用紙に題と氏名を**記入してはいけません**。
- 6 **受検番号**を解答用紙の決められた欄に書きなさい。
- 7 解答用紙の※印の欄には何も記入してはいけません。

表1 一次エネルギー国内供給

(単位:PJ)

年度	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023
石油	9,336	8,812	8,858	9,097	9,220	9,003	8,351	8,138	7,880	7,842	7,409	7,101	6,543	6,752	6,616	6,272
石炭	4,940	4,401	4,997	4,672	4,883	5,303	5,097	5,154	5,041	5,043	4,948	4,848	4,419	4,811	4,696	4,288
天然ガス・都市ガス	3,876	3,776	3,995	4,681	4,871	4,898	4,961	4,657	4,729	4,696	4,510	4,281	4,272	4,001	3,939	3,627
化石燃料による エネルギー供給の小計	18,152	16,989	17,850	18,450	18,974	19,204	18,409	17,949	17,650	17,581	16,867	16,230	15,234	15,564	15,251	14,187
原子力	2,236	2,396	2,462	873	137	80	0	79	154	281	553	539	328	605	479	727
水力(揚水を除く)	668	673	716	729	657	679	702	726	678	714	689	676	666	674	658	650
再生可能エネルギー(水力を除く)	404	391	436	444	455	536	614	726	808	934	1,025	1,116	1,196	1,325	1,375	1,462
未活用エネルギー	438	405	530	514	519	553	538	536	568	588	586	576	541	549	537	550
非化石燃料による エネルギー供給の小計	3,746	3,865	4,144	2,560	1,768	1,848	1,854	2,067	2,208	2,517	2,853	2,907	2,731	3,153	3,049	3,389
一次エネルギー国内供給の合計	21,898	20,854	21,994	21,010	20,742	21,052	20,263	20,016	19,858	20,098	19,720	19,137	17,965	18,717	18,300	17,576
化石燃料によるエネルギー供給の 一次エネルギー国内供給の合計 に対する割合(%)	83%	81%	81%	88%	91%	91%	91%	90%	89%	87%	86%	85%	85%	83%	83%	【㉞】
非化石燃料によるエネルギー供給の 一次エネルギー国内供給の合計 に対する割合(%)	17%	19%	19%	12%	9%	9%	9%	10%	11%	13%	14%	15%	15%	17%	17%	【㉟】

(資源エネルギー庁ホームページより作成)

問Ⅰ 表1は、日本の発電における「一次エネルギーの国内供給」をエネルギー源別に示したものである。
 二〇二一年に発生した東日本大震災と関連づけ、大幅に変動が見られる項目に留意しながら、二〇〇八年
 ～二〇二三年における化石燃料と非化石燃料の供給の変化について、一〇〇字以上一五〇字以内で書きな
 さい。その際、二〇二三年度の国内供給に対する、化石燃料によるエネルギー供給の割合①と、非化石燃料
 によるエネルギー供給の割合②をそれぞれ計算し、それらの数値を用いて答えよ。なお、それぞれの割合
 は小数点以下第一位を四捨五入し、整数として求め%の形で示すこと。

※一次エネルギー——化石燃料(石油、石炭、天然ガス・都市ガス)と非化石燃料(原子力、水力再生可能エ
 ネルギー、未活用エネルギー)などの自然から直接得られるエネルギー。

※未活用エネルギー——川・下水・海水などの温度差、地下水や地中熱など、本来有効活用できるのに今
 まですら利用されずに環境中に放出されてきたエネルギーを発電などに利用。

問Ⅱ 東京都は、より良い未来の都市の構築に向け、二〇五〇年ゼロエミッションを実現するために、
 二〇三〇年カーボンハーフ(二酸化炭素排出量の半減)とその先を見据え、二〇三五年までに温室効果ガ
 ス排出量を二〇〇〇年比で六〇%以上削減する目標ゼロエミッション東京を掲げている。この実現には、
 化石燃料から非化石エネルギーへの転換、いわゆる脱炭素化が不可欠である。

脱炭素化を実現するための具体的な取り組みについて、あなた自身が取り組むべきことと、社会が取り
 組むべきことを、一つずつ挙げ、それぞれの理由と課題に触れながら、四〇〇字以上四五〇字以内で書き
 なさい。

※ゼロエミッション——人間の活動から排出される廃棄物、特に温室効果ガスや産業廃棄物を自然界の
 循環システムによって吸収できる範囲内または実質ゼロにすることを目指す概念。

※脱炭素化——二酸化炭素をはじめとする温室効果ガスの排出量を実質ゼロにする取組み。